

下水路に蛍の光

造った水路に初 地域の人訪れて観賞

昨年末、中庭に蛍の水路が完成した下水路小学校で6月中旬から蛍が無い初め、地域の人が子供たちが訪れて、幻想的な光のショーを楽しんでいる。多い日は10匹以上見られるという。

今春、蛍の幼虫を放流。発生が心配されたが、6月17日に教職員が蛍の飛ぶ姿を確認した。東北地区住民自治協議会の稲里地区委員会や小島田地区委員会、児童などでつくる「ホタルの郷(さと)再生事業実行委員会」が両地区にチラシを配

ってPR。晴れた日の夜は家族連れなどが訪れ、「不思議な光だ」「かわいいな」などと会話を交わしながら観察している。

かつて田圃地帯だった稲里・小島田地区は、数十年ほど前までは、数十年ほど前までは、蛍が見られたという。水路は蛍を復活させようと、同実行委が造った。長さ約100mで、校内の井戸からポンプで水をくみ上げて通年で流している。



水路の近くで蛍を観賞する親子連れ（6月30日夜）

今年1月、蛍の餌のカワニナを放し、「長野ホタルの会」の三石 輝弥会長の指導を受け、6月29日、同校で開いた実行委の会議で、ポンプや水路の維持・管理、蛍についての勉強

委員長(66)は「蛍の復活で、自然を大切にしようという気持ちが住民や子供たちの間で一層高まると思う。思い出に残る地域づくりや住民の交流の場にも役立つ」と話していた。

H22. 7. 3
長野市民新聞
より